

協議会議事録	
会議名	平成21年度 第6回江田島市公共交通協議会
日時	平成22年2月23日(火) 13:30~15:30
出席者	別紙出席者名簿
1 開会	
事務局	開会宣言
2 会長あいさつ	
会長	あいさつ
3 議長の選任について	
事務局	野原委員を議長に選任
4 協議	
(1) 江田島市地域公共交通総合連携計画(案)について	
事務局	資料1、2-1、2-2、3により説明
議長	質問や意見はいかがか。
委員	<p>自治会における現状を説明したい。これまで説明してきたとおり、江田島市の各地域ではそれぞれ状況が異なるが、市の公共交通は重要なインフラであるとの認識に立って考えることが重要である。</p> <p>陸上交通については、江田島町、沖美町を交通空白不便地区のモデル地区に認定している。江田島市は島全体がモデル地区のようなものであり、モデル地区での実証運行を見て、逐次展開をお願いしたいと考えている。</p> <p>航路については、中町・高田～宇品航路のフェリーを三高に集約することは、条件付で了としている。能美町自治会としては、「既存のフェリー6便分の運賃を交通弱者のライフラインとして、フェリーの運賃に据え置くこと。それができない場合、利用者の負担軽減のために、高速船の運賃をするなどの方法を考えてもらいたい。」ということで、老人クラブと女性会の代表者とも協議している。利用する側は、1円でも安いほうが良いということである。先ほどの説明では、930円に値下げし、回数券でさらに値引きを実施するとのことであったが、具体的な数字を示して頂ければわかりやすい。</p> <p>市営船は住民の資産である。軽々に民間にとは認められない。市営船の存続を担保とした計画策定をして頂きたい。</p>
議長	補足は無いか。

<p>委員</p>	<p>この前、高速船に夫婦で乗った。往復で約4千円かかり負担が大きいと感じた。低速にすれば料金を下げることができるのか、伺いたい。三高にフェリーを集約ということであれば、中町、高田からバスの運行はあるのか。この前は「無料のシャトルバスを出す」という意見があったが、無料でなくてもワンコインでもいいのでバスがあれば良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>事業の具体については計画書に示されているが、今の時代は島しょ部などは何もかもが切り捨てられる時代である。宇高航路も廃止されるような国の政策である。クレアラインの無料化も発表された。江田島市は毎日のように葬儀が行われている実態であり、あつという間に人口が2万人を切るのではないかと危惧している。</p> <p>呉市や広島市との交流には、バスや航路の存続が絶対条件である。所得が減少する中、事業実施にあたり、(定住)人口が減少すれば交流人口が増えても意味がない。いくら効率化しても、人口が減少するような効率化であれば意味がない。この点への配慮をくれぐれも事務局にはお願いしたい。</p> <p>実証運航の事業主体となる江田島市企業局に、受け入れ態勢や料金等の話を伺ったが、通勤・通学者に配慮した料金の設定や、空で船を走らせるより少しでも料金を安くしてはどうかという意見もある。このあたりについて事務局の考えをお聞きしたい。</p>
<p>議長</p>	<p>事務局から回答をお願いしたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>事務局で考えていることに限定して回答する。</p> <p>回数券は、12枚つづりで1枚あたり775円になる想定である。当然、市議会等と調整する必要がある。</p> <p>運航速度の低減については、現在運航している船の構造上、好ましくないと聞いている。新しく船を購入する予定もない。よって、低速による低料金の設定は難しいと考えている。それよりも全体を値下げして、既存の3隻で運航するという考えである。</p> <p>これまでに述べている話については、参考資料1の海上分科会の議事概要の2ページ目をご覧頂きたい。西能美航路については、大須の移動手段確保を、航路かバス路線のどちらかすべきかといった意見や、本当に経営改善になるのか、事業者と調整が必要という意見があった。料金の問題については、住民への説明をしっかりとしていきたいと考えている。</p>
<p>議長</p>	<p>追加のご意見、ご質問はあるか。</p>
<p>委員</p>	<p>高速船の料金1,030円を930円にするのは、事前に利用者数のシミュレーションが必要ではないか。事業を実施することでどの程度の経営改善が見込めるのか、納得できるように示すべきである。市民にも痛</p>

	<p>みの分かち合いの精神はあると思う。</p>
議長	<p>しかるべき負担は市民側にも負って頂いて、なおかつ適切な料金ほどの程度なのかを定めれば良いのではないか。</p> <p>事務局から補足はあるか。</p>
事務局	<p>シミュレーションは企業局で実施しており、930円はそこから出した金額である。その資料は、今は無いが、今後の説明の中ではそういった資料も必要と思う。芸備商船の方の経営改善がどうなるかということは、まだ情報を十分収集できていない。そのあたりを合わせて今後説明していきたい。</p>
議長	<p>今日は芸備商船の方もおられるので、ご意見がありましたら宜しくお願いしたい。</p>
委員	<p>今後、時間をかけて、芸備商船と市が定期的に話合うことが必要と思う。運賃のことだけではなく、利便性や全体的な航路の再編など、話すべきことはまだまだあると思う。</p> <p>協議したことは住民、業者の皆様によく説明して理解を得ることが一番大事だと思う。そこで副市長と事務局の皆さんにお願いしたい。双方の協議の場を立ち上げて頂きたい。</p>
会長	<p>料金設定については市民の許容範囲を考えて企業局の方で試算しながら進めていく。また東側の航路を担うファーストビーチとも調整が必要と考えている。芸備商船とも江田島市が保有しているフェリーの活用等について、10月の実証運航に向けて協議が必要と考えている。</p>
議長	<p>先ほど意見にあった速度を落として料金を下げることについてはいかがか。</p>
会長	<p>市議会では、キャッチフレーズになっている「中町・高田～宇品を30分」について、「時間帯によってはこだわる必要は無いのではないか。」という意見があり、旅客船のような形で料金を下げることを検討して欲しいという意見が多い。これを受けて、事務局や企業局と検討したが、高速船を3隻抱えた状態ですぐには実施することは難しいという結論に至った。今後、どの程度速度を下げればどの程度料金を下げられるのかを試算していきたい。</p>
議長	<p>難しい問題ではあるが検討に値する意見である。旅客船協会の意見はどうか。</p>
委員	<p>交通基本法が国会で審議されようとしている。国が守るべき交通を定めるものである。県も定め、次に地域が定める。現在は逆になっている。切羽詰っている地域が先に交通を守る状況になっている。本来は江田島市と広島市の航路は国道に準じて国が位置づけるべき航路である。そうすると「国道」であるから、国がある程度関与する中で、「この航路を維持できる。」という考え方が出てきてもおかしくない。</p>

完全離島の場合は国から 100%補助が出る。江田島市の場合は、本土と橋でつながってはいるが、本土との間をつなぐバスがなく、船で行くより3倍の時間がかかる。自家用車のない人にとっては船が唯一の移動手段であるのに、国からの補助を受けられない。本来であれば、交通基本法に則って国が位置づけて、我々も国道ルートとして位置づけてもらえるよう、運動するのもこの協議会のひとつの役割だと思う。交通基本法に関するパブリックコメントの募集要項があったが、広島県旅客船協会、中国旅客船協会ではまずこれに意見を提出したいと考えている。早く交通基本法を作って、国なり県の位置づけがあって、その中に我々の江田島市と広島市や呉市への航路がどのように位置づけられるか、それで拾い切れなかったものを市として確保するのが順番であると思う。今回の事業計画の中にクリアラインへの対策もあったが、交通基本法をにらんだ対応が必要である。

料金については、税金を湯水のようにつぎ込めばいくらでも安くできる。しかし、それで良いのか、ひとつの航路にそのようなことをして良いのか、ということである。江田島市全体のことを考える必要がある。以前、旅客船協会として無料バスで三高へ接続する案を示したが、そうすれば、中町から6便のフェリーに乗っていた方は、三高の16便のフェリーにも乗れるようになる。三高の16便のフェリーに乗っていた方は、中町の高速船にも乗れるようになる。それで駄目なのか。地域の事情があるのもわかるし、民間事業者への不信感があるのもわかるが、事業者が良くなれないといけない。

今の計画でいくと、今まで中町からフェリーに乗られていたお客様は全部中町で完結しようとしている。徒歩のお客様があえて三高まで行ってフェリーに乗られるとは想定していない。そうすると、フェリーをやめることによって企業局はどれだけ収支が改善するのか。車は三高へ来る可能性はあると思うが、徒歩のお客様は中町へ残ったままの状態である。それによって芸備商船の経営がどれだけ改善するのか。こういうところもつき合わせてみないといけない。

恐らく市のフェリーは大赤字で、高速船である程度黒字を出していると思う。ということはフェリーをやめれば黒字になる。黒字化した部分で高速船を安くして良いのか。あるいは市としていくらまで赤字補填を航路に対してするのか。中町だけでなく他航路も含めてである。

料金については、「市内から通勤・通学する人の望む額はいくらなのか」という逆算の考え方も必要。「現在3万円かかるところを仮に通勤定期を2万円で済むような交通体系をどうすれば構築できるか。」という視点が必要である。フェリー、高速船、旅客船の位置づけをどういう割合で配置し、誰が運営すれば良いか、そのような観点も必要である。これはこれからの議論でも良いと思う。

	クエアラインについては、国の施策で無料化するので、国に責任を持って調査をして頂きたい。
議長	ただいまの意見について何か意見はないか。
委員	クエアラインの無料化については、車を利用して広島などへ移動する時は2,600円払っても運賃が900円下がって1,700円で広島へ行けるようになったと考えるようにしようと思っている。 早めに出て早瀬大橋、音戸大橋を通過して大変な目をして、事故にあう危険性もある。船に乗れば目的地にも早く着く。島に住んでいれば損もあれば得もあると思う。案外、船の売り上げも上がるのではないかな。悲観的になって島から人が出ていくことばかりを考えていては駄目である。島のためにもフェリーや高速船も自家用車も適度に使って生活をして頂きたい。 学生の場合は別として、交通費であれば会社が負担する場合はほとんどであるので、あまり悲観的にならなくても良いのではないかな。ただ、危機管理意識は持たなくてはならない。
議長	特に通学の場合の保護者の負担増を何とか軽減する方法はないかという意見がある。高齢者の場合も公共交通機関しかない場合もあり、そうした方が利用しやすい環境づくりをするために、できるだけ料金を上げないで済ませることはできないかということも含め、今後さらに検討をしていきたい。
委員	能美から無料バスがあっても三高に行く人はいないと思う。30分もかかるから。航路事業者側からの意見も理解できるが、交通弱者の目線から高速船の料金を少しでも安くすべき。料金を安くすることで、市外に出ていた住民が帰ってくるはずである。利便性より料金が一番である。交通弱者に配慮した料金設定を考えて欲しい。
議長	交通弱者、高齢者をサポートすべきというご意見であった。それは十分考慮されるべき事柄であるので、そういったことを含めて10月に行われる実証運航を検討することが必要である。
会長	料金の低減に関する意見が多いが、現在の便数を確保しながら料金を下げるのは難しいように思う。便数取るか、料金を取るか、何もかも全ては上手くいかない。料金を下げるためには「便数を減らす」だとか「民と官が協力して運航を上手にまわす」などといった知恵の出し合いが今後必要であると思う。単独ではなく、何度か集まって今後調整することが必要である。今後、市民にご理解を頂く必要がある。
委員	需要を踏まえながら、最終的に料金やサービス、どれを取るか、トレードオフの問題である。先ほど930円の想定は、需要は変わらないということか。料金が安くなることによるフェリーからの転換等を踏まえておく必要がある。

	<p>料金の設定も、柔軟に対応すべきではないか。運転免許返納制度との連携や、通学者の優遇など。どこにミーティングポイント（合意を得る点）を置くか、目の前のことだけでなく、先を見据えた計画が必要である。</p>
議長	<p>オブザーバーから意見は無いか。</p>
オブザーバー	<p>住民の立場から意見を言わせて頂く。料金が安くできないのであれば、その理由をしっかりと PR して頂きたい。江田島バスが平成 20 年 4 月にできた時、航路も路線も住民の意見をもとに適正な価格・時間を決めたいということで5月の時点でもう少し時間をくれと言われた。江田島町自治連合会で、市と一体となってそういうことも改善しましょうという話をしたが、今回のこのような会議が持たれるまで全く行われていない。住民は非常に注目している。住民は、無茶は言っていない。船会社、バス会社、市の補助のことを全て隠さずにオープンにし、我慢すべき部分を十分に説明して頂きたい。</p> <p>自分の家族は海田町に勤務しているが、天応へフェリーで渡れば、交通費が毎月 6 万円程度かかる。土日は手当が出ない。クレアラインが無料化になれば、クレアラインを利用すると言っている。みんなに通勤手当が 100%出るわけではない。そのような発想ではなく利用者あつての船である。各社がよく話し合い、その内容を住民によく PR して欲しい。小用～宇品間の 12 枚つづりの回数券などの情報も PR が不足している点で同様である。</p>
議長	<p>説明や情報提供は十分にやっておく必要がある。</p>
傍聴者	<p>主婦の立場で申し上げる。色々な意見があるが、低料金というものは色々な意味がある。島に総合病院もない状況の中で治療が必要な方が通院に利用している場合もある。</p> <p>ひとつの制度だけでなく、ひとつひとつに横のつながりでもって広がりを持たせてほしい。急病時、夜であれば橋があるので呉の病院に行くが、それからのフォローが大変である。高齢者は病院へ看病に行くためにビジネスホテルに泊まったり、アパートを借りたりする状況がたくさんある。</p> <p>似島は夜間、救急の船が何時であっても無料で出ると聞いた。交通費を考えると広島には出たくてもなかなか出られないという話も聞いた。低料金ということがどんなに町の活性化につながるかということを考えて頂きたい。今は元気でも、年をとったときのことを考えて、どうしたら低料金にできるか、低料金にしたらどこを切り詰めればいいのか、低料金にするために大切な税金をどこにつぎ込めば良いかを考えて欲しい。</p> <p>この前、「いのちの山河」という映画を見た。岩手県の雪深い村で高齢</p>

	<p>者は皆の負担にならないように自殺するという村であった。そうした中で住民一人一人の意見を町長が聞き、ラッセル車を買ひ、病院に行けるようにし、みんなの健康を守ったという話であった。</p> <p>そしてこの岩手県から 60 歳以上の医療費が無料になる制度が始まったと聞いて、私は感動した。</p> <p>この江田島市でも「他にないことを先駆けてする」ということが町の活性化になると思う。低料金ということにはたくさんの意味を含んでいるので、是非とも「みんな高齢者・交通弱者への道を歩む」ということを考えて欲しい。</p>
議長	<p>オブザーバー等の意見を伺ったが、委員の皆さんから意見はないか。今回はオブザーバーや傍聴人からも意見を頂き、江田島市の公共交通への想いが大変強いものだということが良くわかった。特に便数、料金等については意見が多く、江田島市の地域公共交通総合連携計画を策定する中で、今後さらに皆さん方の意見を反映できればと考えている。皆さんから出た意見を含め、議長と事務局に一任して来月策定する計画を出したいと考えているが、いかがか。</p>
各委員	(異議なし)
5 その他	
議長	交通基本法の策定について先ほど旅客船協会の委員さんから意見があったが事務局から何かあるか。
事務局	参考資料2により説明
議長	質問や意見はいかがか。
事務局	市でもこの意見募集に対して交通事業者や旅客船協会の方々の意見等踏まえて、できるだけ同じ方向に向いた形で意見を出していければと考えている。
議長	<p>委員から何か意見はないか。</p> <p>今回が6回目でいよいよ来月に最後の会を開きたいと思う。事務局から委員に何か連絡はないか。</p>
事務局	<p>今後この計画については議長と事務局で調整し、計画書自体は今説明した方向でとりまとめさせて頂く。その最終形を含めて、今回保留にしている事業費の部分は次回に説明する予定である。次回協議会の日程は、議会等もあるので3月23日以降の予定である。この計画書に関する今後の調整については、今日頂いた意見を踏まえて進めていきたいと考えている。</p>
議長	<p>喧々諤々議論したが、行き着くところは便の問題、どの港に発着するかということ、料金の問題等々であった。そういった意見を踏まえ、来月23日以降で最終日程を決めて頂きたい。</p>

6 閉 会